

令和7年度 第1回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 令和7年8月4日(月) 18:30~19:50
場 所 : 帯広市役所 10階 第3会議室
出席委員 : 窪田会長、石原委員、氏委員、角島委員、川向委員、工藤委員、柴田委員、日月委員、外山委員、野原委員、村山委員、山本委員(以上12名)
説明員 : 中里政策推進部長、高橋政策推進部参事、石津企画課長、
(事務局) 奥村企画課長補佐、岡企画課主任補、遠藤企画課主任補
傍聴者等 : 報道関係者3名
配付資料 : 会議次第、出席者名簿、配席図、資料1

◆会議次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委員紹介
4. 議事
 - (1) 会長の選出について
 - (2) 職務代理者の指名について
 - (3) 令和6年度施策・事務事業評価(総合計画)について
 - (4) その他
5. 閉会

※ 開会に先立ち、市長から各委員へ委嘱状を交付

◆議事概要

【事務局】 本日の会議出席委員は、委員 15 名中、12 名の委員が出席しており、過半数に達しているため、会議が成立していることを報告する。
議事の進行については、会長を選任していただく必要があり、選任されるまでの議事については、引き続き、事務局が行う。

【事務局】 はじめに、(1)「会長の選出について」を議題とする。会長は、帯広市総合計画策定審議会条例第 5 条第 1 項の規定により、互選により定めることとしている。会長の自薦または推薦などについて、意見はあるか。

(委員からの意見なし)

【事務局】 意見がなければ、事務局から提案するが、いかがか。

(委員からの異議なし)

【事務局】 事務局案としては、会長に帯広畜産大学の窪田委員を推薦するが、いかがか。

(委員からの異議なし)

【事務局】 異議がないため、窪田委員を会長に選任する。

(会長挨拶後、市長退席)

【事務局】 今後の議事進行については、窪田会長にお願いする。

【会長】 (2)「職務代理者の指名について」を議題とする。職務代理者については、帯広市総合計画策定審議会条例第 5 条第 3 項の規定により、会長が指定することとなっているため、村山委員を指名させていただきたい。

(委員、了承)

【会 長】 次に、(3)「令和6年度施策・事務事業評価（総合計画）について」を議題とする。事務局より説明をお願いする。

— 事務局より資料1に基づいて概要を説明 —

【会 長】 説明した内容について、まちづくりの目標ごとに、意見をいただく。はじめに、施策1～7「ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち」の評価について、意見や質問があればいただきたい。

【委 員】 健康と思っている市民の割合が増加している一方、がん検診平均受診率や糖尿病リスクが高い人の割合も増加している。健康と思っている市民について、どういった調査で把握しているのか。健康と答えた方は、主観的に判断しているのか、それとも客観的なデータに基づいて、判断しているのかを確認したい。

【事 務 局】 毎年、無作為に選ばれた3,000人の市民に対して、市民まちづくりアンケートを実施している。その中の「あなたの現在の健康状態は次のうちどれか」という設問に選択肢から選んで回答してもらっており、自身の主観で答えてもらっている。

【委 員】 主観的に判断するものと、客観的に判断するものは違うと思っている。実際に、自分では健康だと思っても、実は未病状態にある人が多いと感じている。そのため、アンケートでは難しいとは思いますが、もう少し深掘りができるような視点や客観的な判断ができる設問があれば良いと思う。

【事 務 局】 まちづくりアンケート結果から、各年度の経年変化を確認しており、計画期間の途中から質問の内容や基準を変えることで、統計値にばらつきが生じてしまうため、すぐに変更することは難しい。今後、新しい総合計画を策定していく中で、このアンケートの実施方法やあり方も含めて検討していく。

【委 員】 10万人あたりのボランティア登録者数は、新型コロナウイルス感

染症により減少したものの、徐々に回復していた。しかし、今年度は、前年から見ると1割近く落ち込んでいる。この要因は分析されているか。

【事務局】 基本的にはボランティアの高齢化に伴い、登録者数が下がっている要因と捉えている。災害が起きた後には、登録者数が増加するような傾向もあり、そうした社会状況なども踏まえて、再び減少していると推測している。

【委員】 私も施設を運営しており、多くのボランティアに協力いただいているが、ここ数年、アクティブなシニアが、ボランティアとして加わりづらい現状にある。昨今の定年延長などにより、シニアの方の状況が変化しており、高齢化以外の要因もある捉えている。

【事務局】 委員の認識は、その通りだと思う。担当部とも共有し、分析などを行いたい。

【委員】 子ども発達支援事業では、相談件数の増加が目標として設定されていることに矛盾を感じる。相談件数は、減少する方が良いと捉えているが、目標として増加を設定しているのは何故か。また、発達支援に対する別の施策や事業もあるのか伺いたい。

【事務局】 相談しないことが良いことなのか、良くないことと捉えるのかは判断が難しいところがあるが、市では、相談せずに1人で悩むことがないよう、切れ目ない形で相談を受けられる環境づくりを行うことで相談件数が増加すると捉えている。

【会長】 次に、施策8～11「活力とにぎわいと挑戦があるまち」の評価について、意見や質問があれば、いただきたい。

【委員】 農業産出額（市推計）が過去最高の状況にあるが、農家からすると経費の増加に収入が追いついていないのが実感である。また、近年の猛暑や少雨により、農作物の品質に大きく影響を受けるような年が続

いている。農家にとって、土地が豊かであることは、何より重要であるため、基盤整備事業については、これからも目標を持って進めてもらいたい。もう一点、鳥獣の被害が近年増えている。個体数を減らすことや鳥獣が身を隠す環境をなくすことで、被害の減少に繋げることができるため、そうした取り組みも進めてもらいたい。

【事務局】 灌漑をはじめとする基盤整備事業については、計画的に進めてきているほか、国や北海道に対する要望活動も行ってきており、引き続き、取り組んでいく。また、鳥獣被害については、市町村の境界を越えた問題であるため、昨年度から、19市町村で行っている広域連携の取り組みの中で、こういった対策ができるのかを情報交換をしながら、検討を進めている。

【委員】 施策の指標の動向を見ると宿泊客延べ数や空港旅客数は、目標を達成してないが、北海道内の他地区では、外国人の入り込みや宿泊がここ数年顕著に増加している。十勝は、多くの観光資源を有しているが、こうした数字を伸ばせていないところに課題があると認識している。今後は、市だけではなく、十勝全体で魅力あるプランや施策に取り組むべきと考えるが、既に広域で実施している取り組みや予定しているものがあれば伺いたい。

【事務局】 そうした課題は、他町村と共有しており、昨年度、19市町村や民間、国、道で十勝インバウンド誘客推進協議会を設立した。協議会では、広域での観光コンテンツの開発や19市町村で連携したプロモーション活動などに取り組み始めたところである。また、韓国から定期便も就航したことから、今後、さらにどういったことができるのか検討してまいりたい。

【委員】 物流の2024年問題が全然解決していない状況であるが、今後は、2030年問題も出てくるため、トラック業界の環境は、より深刻な状況になると思っている。先を見据えて物流拠点等の整備を進めても、物流の大半がトラック輸送であるため、そうしたことを理解した上で、次の計画では取り組みを見直してもらいたい。

【事務局】 市として取り組めることは、現段階で難しいところがあるが、交通の協議会等で、トラック業界の方々の話を伺ったりしているところ。今後も、情報共有から始めていくことになると考えている。

【委員】 十勝では、車での移動は必須だが、運転手不足などにより、タクシーを予約することが難しい状況にあり、急に予約して、どこかへ出かけることができなかった経験がある。また、市では各観光名所の紹介は行っているが、それらをコースとして紹介することはあまり行っていないため、上手く観光名所を回ることができないように感じる。いくつかコースとして提案することで、観光客がスムーズに観光を行うことができると考えている。

【事務局】 タクシーに限らず、どの業界もそうだが、担い手の不足が問題となっており、そうした問題は、市の産業部門においても課題として認識している。行政がどこまでできるかは分からないが、業界の方々と話し合いながら、解決策を議論していきたい。また、観光名所を回るコース紹介についても、観光関係団体等がパンフレットを出しているのので、今後の参考としていきたい。

【会長】 次に、施策 12～15「ともに学び、輝く人を育むまち」の評価について、意見や質問があれば、いただきたい。

【委員】 社会教育施設の利用者数が、新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べ、低い水準で安定しているように見受けられるが、感染症流行以前と比べて減少している要因は、分析しているのか。

【事務局】 要因を明確にすることは難しいが、感染症の流行期に余暇の過ごし方や趣味等が変化したと感じている。オンライン会議が定着したように、自宅のオンライン環境で生涯学習や文化に触れられるようになったなどの変化があったと考える。そうした中では、生涯学習施設が、提供しているサービスも、社会の変化に対応していく必要があると感じており、今後検討していきたい。

【委員】 利用者数の減少は、特定の施設ではなく、全体的に起きていると受け止めてよいか。

【事務局】 令和5年度と令和6年度の比較における減少については、一部の施設での減少である。

【委員】 利用者数と直接繋がる話ではないかもしれないが、市内の社会教育施設を見ると、専門的な部分の多くを非正規の方が担っており、社会教育施設を持続的に有意義なものにしていくためには、専門性は大事な視点だと捉えているため、市にも大事にしてもらいたい。

【事務局】 市の職員は、人事異動があるため、専門性が高い職は、専門的な知識を有する方を臨時で採用して担ってもらっている現状にある。今後、専門人材の確保については、検討してまいりたい。

【委員】 農村部の小学校に体験入学する外国人ファミリーが滞在場所として、ゲストハウスを利用しており、そういった需要があると感じている。すぐには難しいと思うが、交通の便や短期で滞在できる施設を農村部に整備することで、移住促進や観光に繋がるのではないかと考える。

【事務局】 交通の便や施設整備は難しいと考えるが、体験入学しやすい環境作りとして何ができるか、学校教育部と意見を共有させていただく。

【委員】 とかちプラザのレインボーホールは、音楽活動など、様々なイベントで利用されているが、女性用トイレの多くが和式である。鑑賞に来られる方は、中高年の女性が多いと感じており、そうした方々には、和式のトイレは、利用しづらいため、少しずつでも洋式化してもらえればと思う。

【事務局】 トイレの洋式化については、生涯学習施設に限らず、学校など様々なところで進めているが、洋式化することで、個数が減ってしまうなどの問題もあり、すぐに進められていないと捉えているが、要望につ

いては、引き続き、担当部へ伝えていく。

【会 長】 次に、施策 16～21「安全・安心で快適に暮らせるまち」の評価について、意見や質問があれば、いただきたい。

【委 員】 消費生活に関する講座、講演会の開催の参加者数に高校生や高齢者は含まれるのか。また、参加者数のうち、消費者被害に遭いやすい高校生や若年層、高齢者はどのぐらいの割合を占めているのか。正しい知識が身に付いていない若者が、消費者被害に遭う事案が見られている。そのため、社会人となる 1 歩手前の高校生に対して、正しい知識が身に付く取り組みを行うなど、消費者被害に遭わないための施策が重要だと思っている。また、取り組みを 1 歩進めて、犯罪に関与させないようにする取り組みを付け加えて行っていただきたい。

【事 務 局】 消費者生活については、昨年度、市の計画を改定したところ。その際に、市としても若い世代に向けた取り組みを強化していくべきだと考え、そうした方々を対象とした講座等を積極的に開催するなど取り組みを進めてきている。話をいただいた犯罪に関与させない取り組みに対するご意見について、担当部に共有させていただく。

【委 員】 十勝・帯広はどんどん家が建っており、勢いがある都市との認識があったため、空き家数の増加に驚いている。空き家は、札幌のような大都市でも、地域によって大規模団地の空室が目立っているほか、室蘭のような人口がピーク時の半分になってるところでは、一気に空き家が増加し、悪い影響が出ているところも見えてきた。市でもこのなだらかに増えている中で、どこかの時点で一気に色々な悪い影響が生活の中に出てくるのではないかと危惧している。これからどうやって人を呼び込んでいくのか、色々な方法を考えてもらいたい。

【事 務 局】 昨今の人件費や資材価格、除却費用の高騰もあり、空き家を除却できない状況が増えてきていることが要因の一つと捉えている。こうした問題は、全国的に同様であり、市としては、除却の補助等を行ってきているが、状況を踏まえながら、どのような対策ができるか検討し

ていきたい。

【会 長】 どこの地区で空き家が多いなど、傾向はあるのか。

【事 務 局】 特定の地域で空洞化しているなどの事態は起きてないと認識している。人口減少が進む中、死亡者数も増加しており、市内一円で空き家が発生していると捉えている。

【委 員】 母が所有していた土地に家を建て、住んでいた方が亡くなり、3か月ほどそのままになっていたことが過去にあった。市の職員が発見してくれたことで、事実気づくことができたことに加え、様々な整理を行ってくれたことで、撤去することにも繋がり、効果を実感した。

【事 務 局】 税部門や住宅部門などが連携しながら、把握できる範囲で関係する方に連絡を行っている。話にあったとおり、効果的な取り組みと捉えており、担当部にも共有したい。

【会 長】 最後に、4つの目標に横断的に関わる施策 22～23 の評価について、意見、ご質問等がありましたら、ご発言願います。また、全体を通して何かありましたら、ご発言願います。

【委 員】 家庭の状況により、子どもたちの体験格差が生まれていると言われており、社会教育を学校教育だけではなく、行政が公共で行っていくことは大事だと考えている。市では、「おびひろ市民学」として、小中共通のカリキュラムで取り組みを始めて5年以上経つが、とても良い取り組みだと思う。ただ、校外学習を検討する際、近隣の町はスクールバスを持っているため、市内の施設に行きやすいが、市は自前の交通手段を持っていないため、市内にたくさんの施設があるにも関わらず、学校の授業の中で利用できないという実態があると多くの教員から伺っている。子どもたちの体験の機会を保障するためには、行政がそうした機会を作ることと大事なことと考えている。そこで、ネックになっているのが、バス・交通だと認識している。簡単ではないと思うが、少し充実していただきたい。

【事務局】 学校の授業でプールを活用する場合などもバス移動が伴うものと考えている。バスを確保するとなると、市の財政面やバスの購入、運転手の確保など様々な課題があると考えている。教育、学校の実態も踏まえながら検討していくことが必要と考えており、今後の参考とさせていただきたい。

【委員】 市民相談の実施件数は、市役所の1階にある市民相談窓口を来訪した方の数という理解でよいか。また、週1回、弁護士の無料相談を実施しているが、相談の中から法律相談が必要な案件を弁護士に繋げている理解でよいか。

【事務局】 実施件数については、そのとおりである。また、曜日によって、受ける相談内容は異なるが、相談の内容に応じて、弁護士や他の関係機関に繋ぐなどの対応を常時行っている。

【委員】 市民相談の充足率（予約件数）は高く、また、弁護士が行っている相談事業も、最近は予約が埋まっている。ニーズの高まりを感じるが、相談事業を拡充する考えはないか。

【事務局】 検討している状況は把握していないが、弁護士の方々の体制の問題などがあり、現在の状況になっていると認識している。

【委員】 ボランティア登録をしていない方でも、地域の困り事に対して、一緒に関わってくれる方がいることを日頃から実感している。そのような方を把握するのは難しいと考えており、指標を変えてほしいということではないが、そのような活動をしてくれる人の存在も知っておいていただきたい。

【事務局】 社会福祉協議会のボランティア登録者数として把握はしているが、それ以外にもまちづくりアンケートのボランティアに関する設問において、多くの方々がボランティアに携わっている状況も把握している。意見を参考にしながら、こういった形で状況を把握できるか検討

していく。

【会 長】 最後に、「さらなる進捗が必要」という5施策について、事務事業の進捗は良いが、結果が見えてきてない施策が複数ある。総合的には概ね順調に進んでいると評価されているが、目指そう指標や関連データの採点結果が芳しくない施策もあるため、そこに対しても検証を行うことで、より効果的にPDCAサイクルを回すことに繋がってくるかと思う。

【会 長】 最後に、「その他」について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局より事務連絡—

【会 長】 忙しい中、出席いただき、また、様々な意見をいただき、感謝する。
以上で審議会を終了とする。

以 上